



J R 九州労組

春闘情報

2018年
2月16日
No. 2

九州旅客鉄道労働組合
業務部
発行責任者 中原 博徳
編集責任者 宮路 享

2018春闘が本格的にスタート ＝第1回団体交渉で趣旨説明＝

中央本部は、本日9時30分より「2018年度新賃金等の要求」に対する第1回団体交渉を行い、組合側を代表して、芦原書記長が今春闘における要求趣旨について説明を行い、JR九州労組の2018春季生活闘争が本格的にスタートした。

【組合側の主張】(要旨)

昨年の春闘において3年連続のベアを実現することができたが、未だ世間との乖離が生じていると認識しており、そのことは賃金実態調査においても明らかになっている。厚生労働省が公表した「毎月勤労統計調査(速報値)」によると、物価変動の影響を除いた2017年通年の実質賃金は0.2%減となっており、名目賃金にあたる現金給与総額は0.4%と伸びているものの、物価の伸びに対して賃金の伸びが追いついていないのが現状である。

一昨年、株式上場を果たし、昨年4月にJR九州が発足して30年を迎えたが、これは、この間の労使を挙げた懸命な努力を積み重ねてきた結果であり、グループ全体で成し遂げた大いなる成果である。企業の繁栄、業績の向上のために「平成28年熊本地震」、「平成29年九州北部豪雨」という近年稀にみる災害からの復興にむけて懸命に働く組合員の労苦に報いるのが今春闘であり、会社の使命である。賃金を始めとする諸労働条件の向上はそれに報いる最たるものである。

JR九州の第3四半期決算は、営業収益、運輸収入、営業利益、経常利益で過去最高を更新し、通期の業績予想も、昨年の11月公表時から営業収益、営業利益、経常利益ともに上方修正しており、会社の経営体力は、組合の要求に十分応えることができるものを有している。さらなる経営基盤の確立にむけて、将来投資ともいえる「人」への投資なくして、労働力の確保・定着や、JR九州グループがこれからも成長し、発展していくことに繋がらない。

また、この間、会社としても課題認識を持ち続け、昨年の労働協約妥結時にスピード感をもって対応していくとした高年齢者・嘱託再雇用社員に対する労働条件の改善は、少々の猶予も許されない。今こそ、働く者の懸命な頑張りには報いるべきであり、労働力人口が減少していくなか、人材確保、技術継承・技術伝承、ワーク・ライフ・バランスといった観点からも会社の誠意ある回答を強く要請する。

【会社側の主張】(要旨)

日々の安全・安定輸送の確保をはじめ、お中元・お歳暮等の各種増収施策に対する取り組みに感謝申し上げます。第3四半期決算も好調であり、通期の業績予想も上方修正したが、決して楽観視できない。今春闘においても、政府及び経団連の動向等は注視していく必要があるが、賃金は労使で議論して決定していくものであり、会社の支払い能力を見て判断したいと考えており、今後貴側と真摯に協議していきたい。

希望の明日へ 想いは届け 2018春闘勝利